

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第136回】消費と投資



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター(福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

毎年年末になると「あっという間の1年」という言葉を使ってしまいます。今年もまた年末がやってきました。昨年から申し上げた通り、世界中で選挙が行われ、社会の枠組みが大変化しました。日本においては思いもかけず総理大臣が変わり、韓国では任期を残して大統領が失脚し、フランスやドイツでは政治の枠組みが崩れてしまいました。極め付きは、米国大統領選挙でトランプ氏が当選したことで、一気にその変化の質が変わり、まさに激動の幕開けとなりました。

25年目の覚悟

本年は弊社創業20年目の節目の年でした。7月には記念式典を開催し13道府県から100名近い方々にお祝いをしていただきました。改めて深く感謝申し上げます。極めて個人的なことながら、来年2025年は私がコンサルタントとして独立してちょうど25年目に当たります。ある意味、創業20年とは違う感慨深い年になりそうです。

様々な恵まれた出会いによって、47都道府県を回りながら仕事をするとする稀有な機会をいただいた25年でもありました。2000年に心細い思いで独立したことを思い返せば、どれだけ幸運な環境の中にいたかを改めて感じてしまいます。同時に、25年目を迎えるにあたり、新たな気づきや覚悟もあります。

組織と人の関係

組織とは、所詮人の集団です。それぞれ個性を持った人間が集い、共通の価値観や目的を共有して生活の場や人生を送るステージです。少し長く生きてきた経験を述べさせていただければ、その集団を構成する個人の性格や資質によって集団もまた栄枯盛衰を繰り返します。若手には若手の、中堅には中堅の、ベテランにはベテランの役割が存在します。その役割を自覚させ、行動させ、成果を組み合わせるこそ集団の成功です。

組織の存続と成長のためには、組織の中の仕組みを整えると同時に、その仕組みを機能させる人間も大切です。社会が発展し成熟している現代において、仕組みと人間の組み合わせへの理解が不可欠です。

育成は投資

千円と言う金額を「消費」と捉えるか「投資」と捉えるかは意識の問題です。娯楽へ千円と自分の成長にかける千円では意味が異なります。同様に、従業員に支払う給与を製造やサービス提供のための【コスト】と考えるか、組織にとって必要な人間に対する【投資】と考えるかで、組織の体質はずいぶんと異なります。

かつての日本では、職業は生活の場であるとともに、仲間たちとの共生の場でもありました。それぞれの立場で教え合い、助け合い集団を維持してきました。ある時期から、西洋的な考え方が蔓延し、職業は生活するための場所に過ぎなくなり、多くの人々は時間給で働くようになりました。経営者が人件費を「コスト」と思い定めた瞬間に、日本企業の持つ奥深い共生意識が崩れていったのではないかと思います。

尊敬できる人が…

若く優秀と思える人物たちが会社を離れる時にこうした言葉をつぶやきました。

「うちの会社には、尊敬できる人がいませんから…」

組織の外側にいる人間として、これほど寂しい言葉はありませんでした。経営者が悪いのか、幹部が悪いのか、社員たちが悪いのか。いずれにしても、若者たちにとって居心地の良い空間ではなかったということです。有望な若者が去っていく背景には何があるのでしょうか？組織の目的は、利益や生産性だけではありません。そこで共に働く人々の共助こそこれから中小企業が生き残っていく唯一の道筋かもしれません。

本年も大変お世話になりました。スタッフ一同深く御礼申し上げます。消費減退、人口減少、労働力不足、コスト高など厳しい経営環境が続きます。それでも我々は前に進まなければなりません。来年も精一杯皆様方の支援に努めたいと思います。

皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。